



社長メッセージ ～2023 年を迎えて～

謹んで、新年のご挨拶を申し上げます。

新たな新型コロナウイルスの変異株による感染の再流行のため、皆様におかれましては、落ち着かない中での年越し・年明けだったかと思えます。感染者の急増で病床使用率が過去最高に達するなど、数々の医療機関が危機的状況に陥っているとの報道もあります。罹患された方々の一日も早いご回復と事態の鎮静を心より祈念しております。

米国ヘルスケア業界の最大の投資家向けシンポジウムである J.P. モルガン ヘルスケアカンファレンスが先週終了しました。新型コロナウイルスによる影響が懸念される中で開催されたものですが、想像していたよりも出席者が多く、随分と活気が戻ってきた印象を受けました。私たちは今週から本拠を構えるサンディエゴに戻り、オフィスでの活動が本格的に始動いたしました。

ここで簡単に、当社メディシノバの今年の抱負や取り組みについてお話させていただきたいと思えます。

渡航制限・移動制限、集会制限などが以前よりも緩和されたこともあり、今年は、IR・PR 活動により重点を置き、各プロジェクトの進捗や米国本社でのアクティビティに関する発信を積極的に行いたいと考えています。

現在実施中の臨床治験では、複数のプロジェクトでトップラインデータの発表を予定しています。先週、ダナ・ファーバー癌研究所で実施中のグリオブラストーマ（神経膠芽腫）適応のフェーズ 1/2 治験では患者登録が完了したことを報告いたしました。また、UCLA で実施中のアルコール使用障害（依存症）適応のフェーズ 2 治験に関しては、治験責任医師より本年度上半期中に患者登録が完了する予定である旨の報告を受けています。どちらも有効性に関するトップラインデータが分かり次第、速やかに公表させていただく予定です。

また、BARDA（米国生物医学先端研究開発機構）との共同研究である塩素ガス曝露による急性肺障害プロジェクトに関しては、本年 3 月末には研究結果の最終報告がまとまる予定です。こちらも BARDA からの許可が得られ次第、皆様に結果を共有させていただきます。

2 年越しで完成した MN-166 注射剤による新たな開発を含め、他のプロジェクト、そして MN-001 のプロジェクトに関しても、着実に進めるべく最大限の努力をまいりますので、よろしくお願いいたします。

本年が皆さまにとって幸多き年となることを祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

以 上

2023 年 1 月吉日

メディシノバ・インク
代表取締役社長兼 CEO
岩城 裕一